

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
国語・現代の国語	1年	2	改訂版 高等学校 現代の国語 (数研出版)	教科書、準拠ワーク、国語便覧
科目の概要と目標	<p>知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>思考・判断力・表現力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	定期考査 レポート 小テスト	定期考査 レポート 提出課題	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	論理とレトリック	・論理的ということ 文章の論理展開を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って具体的に考えようとしている。(c)
	一般論と主張	・「大人になる」ための条件 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b)
	対比の構造	・水の東西 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b)
	書き言葉の技術	・文章トレーニング1、2 今までの学習を生かして、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように表現や構成を工夫し、学習課題に沿って意見文を書こうとしている。(c)
	背景を理解する	・ポスト・プライバシー 筆者の考えを参考にしながら実社会の状況や問題点を粘り強く考察し、学習課題に沿って説明しようとしている。(c)
	実用の文章5	「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。(b)
	問題提起	・命は誰のものなのか 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。(a) 筆者の意見を参考にしながら、積極的に根拠や具体例を用いて論理を構成

2	<p>問題提起</p> <p>話し言葉の技術</p> <p>比較する</p>	<p>し、学習課題に沿って自分の意見をまとめようとしている。(b)</p> <p>・他者を理解するということ 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。</p> <p>・話すトレーニング 「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。(b) 相手に伝わるスピーチのしかたについて粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に話したり聞いたりしようとしている。(c)</p> <p>・政治的思考 「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。(b)</p> <p>・未来をはじめる 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。(b) 異なる種類の文章を積極的に読み比べて、それぞれの筆者の立場を理解したうえで、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。(c)</p> <p>・文章トレーニング5 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。(a) 「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。(b)</p>
3	<p>具体と抽象</p> <p>批評する</p>	<p>・ものことば 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。(a) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b)</p> <p>・無意識を滋養する術 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。(b)</p> <p>・『羅生門』の最後の一文 「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。(b)</p> <p>・作品について自分の考えを持ち、文章の構成に注意しながら積極的に批評文を書こうとしている。(c)</p> <p>・言語活動の実践 批評文を書こう 「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。(b)</p>

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
国語・言語文化	1年	3	改訂版 高等学校 言語文化 (数研出版)	教科書、準拠ワーク、国語便覧
科目の概要と目標	<p>知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>思考・判断力・表現力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	定期考査 レポート 小テスト	定期考査 レポート 提出課題	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	古文の世界を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・児のそら寝（宇治拾遺物語） 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。登場人物の行動や心情を説明する。（a）
	日本語の中に生きる漢文	<ul style="list-style-type: none"> ・検非違使忠明 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
	故事と成語	<ul style="list-style-type: none"> ・入門一・二 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。（a）
	和歌による心の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・漁夫之利（戦国策）、矛盾（韓非子） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）
		<ul style="list-style-type: none"> ・芥川（伊勢物語） ・探究の扉 在原業平中将の女、鬼に噉らはるる語（今昔物語集） 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。（b） 粘り強く『伊勢物語』と『今昔物語集』の違いを抽出し、学習課題に沿って文章表現についての話し合いに参加しようとしている。（c）

2	<p>読み継がれる歴史</p> <p>平安宮廷文学の世界</p> <p>漢詩</p> <p>先人を思う旅</p>	<p>・管鮑之交・先從隗始・鶏口牛後（十八史略） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）</p> <p>・ありがたきもの（枕草子） ・雪のいと高く降りたるを（枕草子） ・探究の扉 香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁（白氏文集） 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。（a） 粘り強く『枕草子』と『白氏文集』の主題の違いを考え、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。（c）</p> <p>・登鶴鶴楼、送元二使安西、八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。（a） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）</p> <p>・序一漂泊の思ひ一（おくのほそ道） ・平泉（おくのほそ道） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b） 改作前後の句について粘り強く比較し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。（c）</p>
3	<p>仮名日記文学の原点</p> <p>論説の文章</p> <p>受け継がれる漢文</p>	<p>・門出（土佐日記） 本文と関連する古典常識について調べる。（a） 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。（b）</p> <p>・雑説 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。（a） 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。（b）</p> <p>・山月記 ・人虎伝 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（b） 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。（c） 粘り強く「山月記」と「人虎伝」の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。（c）</p>

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地歴・地理総合	1年	2	地理総合 改訂版 世界に学び地域へつなぐ 新詳高等地図	CONNECT地理総合(第一) 地理総合ワークブック(山川)
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムなどを用いて様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。 ・地理的事象を多面的・多角的に考察し、地理的課題の解決に向けて構想する。 ・我が国および他国の国土や歴史、文化を尊重することの大切さについて自覚する。 			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	世界の生活文化の多様性を理解し、地図や地理情報システム等を用い様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	地理的事象相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的課題の解決に向け構想・議論する。	よりよい社会の実現を視野に、地理に関わる諸事象で見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
主な評価方法	定期考査 レポート 小テスト	定期考査 レポート 提出課題	提出課題

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	第1部-第1章 帰帰線と極圏の違いを理解している。(a) 日付変更線が置かれた理由を説明できる。(b) 射水市のハザードマップをもとに住民や勤務にきている人々の避難先を確保する施策を提案する。(c) 第1部-第2章 領海・接続水域・EEZの違いを理解している。(a) 歴史総合と関連付けながらグローバル化を説明できる。(b) グローバル化のメリット・デメリットを考察する。(b)
2	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球的環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食糧問題 6節 都市・居住問題	第2部-第1章 大地形と小地形の違いを理解している。(a) 雨温図・ハイサーグラフをもとに気候区を判別できる。(a) オセアニア・東アジアの生活文化を説明できる。(b) イスラーム・ヒンドゥーの生活文化を説明できる。(b) 歴史総合と関連付けながらヨーロッパとアフリカ・アメリカ大陸の近代化の歩みを説明できる。(b) 日本への移民を増やしたときのメリット・デメリットを考察し、人口減少への対策を提案する。(c) 第2部-第2章 南北問題と南南問題の違いを理解している。(a) 海洋汚染の解決に自分ができることを提案する。(c) 日本の再生可能エネルギーの課題を説明できる。(b) 人口ピラミッドの推移を説明できる。(b) 食品ロスを減らすために自分ができることを提案する。(c) ニュータウンのメリット・デメリットを考察する。(b) 感染症拡大に備えた産業構造について考察する。(b)
3	第3部 持続可能な地球づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	第3部-第1章 ヒートアイランド現象を説明できる。(b) 海溝型地震と直下型地震の違いを理解している。(a) プレートと火山前線の関係を説明できる。(b) 外水氾濫と内水氾濫の違いを理解している。(a) 自分ができる共助を提案する。(c) 第3部-第2章 地震や洪水を想定した防災行動計画を立てる。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地歴・歴史総合	1年	2	明解 歴史総合 (帝国書院)	明解 歴史総合図説 シンフォニア (帝国書院) 明解歴史総合ノート (帝国書院) 郷土史補助教材「ふるさと富山」
科目の概要と目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を修得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目である。グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。
主な評価方法	定期考査 ワークシート 小テスト	定期考査 ワークシート 小テスト	ワークシート 探究学習課題

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1部 歴史の扉 ・歴史と私たち ・歴史の特質資料に触れる ・歴史叙述とは何か 第2部 近代化と私たち ①近代化への問い ②江戸時代の日本と結び付く世界 ③欧米諸国における近代化 ④近代化の進展と国民国家形成 ⑤アジア諸国の動揺と日本の開国 ⑥近代化が進む日本と東アジア ⑦現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	【第1部について】 歴史資料の読解や歴史叙述の意義について説明できる。(b) 【第2部①～⑥について】 近代化の経緯について正しく理解できる。(a) 近代化の経緯について史資料を活用して自分の言葉で説明できる。(b) 【第2部⑦について】 諸課題に対して知識や史資料を用いて自分なりの解決策を表現できる。(c)
2	第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち ①国際秩序の変化や大衆化への問い ②第一次世界大戦と日本の対応 ③国際協調と大衆社会の広がり ④日本の行方と第二次世界大戦 ⑤再出発する世界と日本 ⑥現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	【第3部①～⑤について】 国際秩序の変化や大衆化について正しく理解できる。(a) 国際秩序の変化や大衆化について史資料を活用して自分の言葉で説明できる。(b) 【第3部⑥について】 これまで学んできた知識や史資料を活用しながら自分なりの見解を表現できる。(c)
3	第4部 グローバル化と私たち ①グローバル化への問い ②冷戦で揺れる世界と日本 ③多極化する世界 ④グローバル化の中の世界と日本 ⑤現代的な諸課題と結び付けて考えよう！	【第4部①～④について】 グローバル化について正しく理解できる。(a) グローバル化における諸問題について史資料を活用して自分の言葉で説明できる。(b) 【第4部⑤について】 自ら設定した問いに対してこれまで身に付けた知識を活用して探究学習に取り組むことができる。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
公民・公共	2年	2	改定版 公共（数研出版）	ニュービジョン公共（浜島書店） スタディーノート公共（数研出版）
科目の概要と目標	人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	定期考査 授業振り返りシート 小テスト	定期考査 授業振り返りシート 提出課題	テーマ別レポート提出

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1章 公共的な空間をつくる 私たち	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。(a)
	第1節 青年期と自己形成	・自己形成の課題について考察し、社会の一員としての自覚を深め、自分の生き方を選択し、自己実現をめざしている。(c)
	第2節 人間としての自覚	・先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響について気付くことができている。(b)
	第3節 日本人としての自覚	・古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。(a)
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容をもとに、自らを成長させる人間としての在り方生き方が考察できている。(b)
	第1節 西洋近現代の思想	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展など、現代の諸課題を主体的に追及できている。(c)
	第2節 現代の諸課題と倫理	・法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。(a)
	第3章 公共的な空間における基本原理	・日本国憲法で保障されている権利がどのように具体的事件に適用されているのかを調べ、その保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。(b)
	第1節 民主社会の基本原則	・国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのか考察できている。(b)
	第2節 日本社会の基本原則	
2	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。(a)
	第1節 日本の政治機構	・行政機能拡大の是非について主体的に考察できている。(b)
	第2節 政治参加と民主政治の課題	・議会の見学や住民運動・消費者運動など、身近に自ら参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。
	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	・日本の政治について課題を発見し、見通しが持てている。(b)
	第1節 経済のしくみと市場機構	・市場経済のメカニズムが理解できている。(a)
	第2節 財政と金融	・現代の資本主義経済でケインズ主義の有効な部分と改善すべき部分が判断できている。(b)
	第3節 日本経済の発展と変化	・消費税や所得税などの税金の用途に関心が持てている。(c)
	第4節 豊かな生活と福祉の実現	・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たす役割と現状を理解できている。(a)
3	第6章 国際社会の動向と日本の役割	・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究できている。(c)
	第1節 国際政治の動向	・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。(a)
	第2節 国際政治の役割と日本の役割	・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。(a)
	第3節 国際経済の動向と国際協力	・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。(b)
		・地域経済統合が進んでいる世界の現状が理解できている。(a)
	・円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。(b)	
	・発展途上国の貧困・飢餓や国際社会における日本の役割について関心が持てている。(c)	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
数学・数学 I	1 年	2	改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)	チャート式 解法と演習 数学 I +A (数研出版) 4プロセス 数学 I +A (数研出版)
科目の概要と目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	各単元の基本的な概念や原理と法則を体系的に理解し、事象を数学化して表現・処理する技能を身につけている。	数や式を適切に変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力、データを適切に分析しようとする態度を養う。	数学を活用し、粘り強く考えて判断しようとする態度、問題解決の過程を評価・改善しようとする態度を養う。
主な評価方法	定期考査 提出課題 課題テスト 小テスト ノート	定期考査 提出課題 課題テスト 小テスト	提出課題 ノート ワークシート 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 課題学習	<ul style="list-style-type: none"> 式を適宜変形し、展開の公式や因数分解の公式が適用できる。(a) 複雑な式についても、組合せや整理して計算することができる。(b) 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。(c) 根号を含む式の計算ができる。分母の有理化ができる。(a) 根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。(b) 対称式の求め方に興味を示し、自ら考察しようとする。(c) 1次・連立不等式、絶対値方程式・不等式を解くことができる。(a) 身近な問題を1次不等式に帰着させ問題を解決することができる。(b) 不等式と等式における解を比較して考察しようとする。(c) 必要条件、命題の逆などの意味を理解している。(a) 命題に応じて対偶や背理法を利用し、証明することができる。(b) 平方完成をしてグラフをかくことができる。(a) 平行移動を、頂点の移動に着目して考察することができる。(b) 平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。(c) 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。(a) 定義域や軸が変化することの最大値・最小値を考察することができる。(b)
2	第3節 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> 判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。(a) グラフとx軸の共有点の座標、個数を求めることができる。(a) 2次関数の値の符号と2次不等式の解を関連させることができる。(b) 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。(c) 三角比の相互関係を利用して値を求めることができる。(a) 鈍角に拡張して考察することができる。(b) 図を積極的に利用することができる。(c) 公式を用いて三角形を解くことができる。(a) 空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察する。(b) 日常の事象や社会の事象などに活用しようとする。(c)

	第5章 データの分析 課題学習	<ul style="list-style-type: none">• 平均値、中央値、四分位範囲、分散などの定義や意味を理解し、求めることができる。(a)• 複数のデータを適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。(b)
--	------------------------	---

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・物理基礎	1年	2	改訂版 新編 物理基礎 (数研出版)	三訂版リードLightノート 物理基礎
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で学んだ基本的概念を発展させ、運動とエネルギー、熱、波、電気、物理学と社会の各分野について学習する。 ・物理の基本的概念や原理・法則を理解し、自然観を育成する。 			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	単位の仕組みを理解し、正しく物理量を取り扱うことができる。物理の基本的な理論を理解し計算できる。	物理的な考え方を理解し、物理量を文字で表現しその関係を式で表すことができる。	提出物や課題に積極的に取り組み、自主的に課題を見つけながら取り組むことができる。
主な評価方法	定期考査 実験レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題 実験レポート

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1編 運動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動と力の関係を正しく把握する。(a) ・運動の3法則の中でも、特に運動方程式の考え方と利用方法を習得する。(a)(b)
2	第1編 運動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事とエネルギーの概念を十分に理解し、仕事とエネルギーを関連づけて定量的な計算ができる。(a)(c) ・力学的エネルギー保存則について理解する。その利用方法を習得し正確に数値計算を行うことができる。(a)(b)
	第2編 熱	<ul style="list-style-type: none"> ・熱と温度の違いを把握し、熱量保存則を正しく利用できる。(a) ・いろいろなエネルギーの変換と効率について理解する。(a)(c)
	第3編 波	<ul style="list-style-type: none"> ・波の基本的な概念を確実に理解する。日常で見られる波の現象が何かを確認し、横波と縦波の違い、2つの波が重なったときに起こる現象について理解する。波の変位が、時間と位置の2つの変数で決定されることに留意する。(a)(b)
3	第4編 電気	<ul style="list-style-type: none"> ・音が、これまで学んだ波としての諸性質を示すこと、弦や気柱の振動などの諸現象を理解する。(a)(b)(c) ・電気の性質や電流と電気抵抗、エネルギーに関わる基本的な原理や法則について理解する。(a)
	第5編 物理学と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・磁場と交流を学ぶことによって、発電の仕組み等を理解する。併せて、電磁波の学習から通信の原理を理解する。(a)(b) ・エネルギーの移り変わりや資源、発電との関連性を理解する。(a) ・摩擦力のコントロールの仕方やエネルギーの有効利用について理解する。(a)(b)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎	2年文系	2	化学基礎 (数研出版)	
科目の概要と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育て、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	日常生活の中で利用されている物質に関する基本的な知識を得るとともに原子分子に関する概念を理解する。	原子分子の質量と数量の関係を理解し、身近な化学反応の仕組みと科学的な見方を理解し応用することができる。	提出物や週末課題に積極的に取り組み、自主的に課題を見つけながら取り組むことができる。
主な評価方法	定期考査 実験レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1章 物質の構成と化学結合 物質の構成 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> 物質は純物質と混合物とに分類できることを理解する。(a) 混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があることを理解する。(a) 物質には固体・液体・気体の状態があることを確認し、相互の変化は熱の出入りによる粒子の熱運動が元になっていることを理解する。(b) 熱運動がなくなる温度を0度とする、絶対温度に関する定義を学ぶ。(a) 物質は種々の元素から構成されていること、元素は元素記号で表されることを理解する。構成する元素の種類によって物質が単体と化合物に分類されること、同じ元素からなる単体には性質が異なる同素体をもつものがあることを併せて理解する。(b)(c)
2	粒子の結合 イオン結合 共有結合と分子間力 金属結合 第2章 物質の変化 物質質量と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> 物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子や原子から生じるイオンが種々の方法で結合した物質について、その構造や表し方、それらの関係を学ぶ。(a) 原子の質量は極めて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の相対的な質量が比較し易くなること、原子量を元に分子量や式量が定義されていることを学ぶ。(a) 物質質量(モル)の概念を理解する。(b) 溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。(b)(c) 化学反応式の係数と物質質量との関係について理解する。(b)(c)
3	酸と塩基の反応 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の反応が水素イオンの授受により統一的に説明できることを理解する。(a) 水はごく一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度をpHを用いて比較できることを理解する。(a) 電子の授受に注目し、酸化数を用いて酸化還元を判断することができる。(b) 代表的な酸化剤と還元剤について、その作用や用途について学ぶ。(a)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎	2年理情系	2	化学基礎 (数研出版)	自作プリント他
科目の概要と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育て、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	日常生活の中で利用されている物質に関する基本的な知識を得るとともに原子分子に関する概念を理解する。	原子分子の質量と数量の関係を理解し、身近な化学反応の仕組みと科学的な見方を理解し応用することができる。	提出物や週末課題に積極的に取り組み、自主的に課題を見つけながら取り組むことができる。
主な評価方法	定期考査 実験レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1編 第1章	<ul style="list-style-type: none"> 物質が純物質と混合物とに分類できること、混合物から純物質を分離・精製するには種々の方法があることを理解している。(a) 物質が種々の元素から構成されていること、同じ元素からなる単体には同素体をもつものがあることを理解している。(a) 純物質と混合物の違い、単体と化合物の違いを説明できる。(b) 物質の三つの状態と熱運動の関係を理解している。(a) 身の周りの混合物を構成している純物質に興味を持つ。(c)
	第1編 第2章	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造や原子を構成する粒子について知る。(a) 原子や単原子イオンの電子配置を示すことができる。(a) イオン化エネルギーや電子親和力の大小からイオンへのなり易さを考えられる。(b) 周期表上の元素の配列について興味をもつ。(c)
	第1編 第3章	<ul style="list-style-type: none"> イオン結合・共有結合・金属結合の特徴を理解している。(a) 結合の特徴から結晶の性質を予想できる。(b) 分子の極性の有無を、分子の形や電気陰性度を元に説明できる。(b)
	第2編 第1章	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量・モル質量の定義を示すことができる。(a) 実際の物質の量を物質量で表すことができる。(a) モル質量やモル体積の概念を用いて粒子の数・質量・気体の体積と物質量に関する計算ができる。(b) 質量パーセント濃度とモル濃度の定義を理解している。(a) 多数の粒子をまとめて扱うのに物質量という概念が便利だということに気付く。(c)
2	第2編 第1章	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応における量的な関係を化学反応式から読み取ることができる。(a) 化学反応を正しく化学反応式で表すことができる。(b) 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。(b) 原子説や分子説の発見にいたる物質探究の歴史に興味を持つ。(c)
	第2編 第2章	<ul style="list-style-type: none"> 酸や塩基の価数、電離度などの定義を理解している。(a) アレニウスやブレンステッドとローリーの定義を元に、酸と塩基を見極めることができる。(b) 水素イオン濃度やpHの定義を理解している。(a) pHの値から酸性(塩基性)の強弱を判断することができる。(b) 中和反応を化学反応式で表すことができる。(a) 中和滴定の操作や使用する器具・指示薬について理解している。(a) 中和反応における量的関係を数式で表すことができる。(b) 身近な酸や塩基の水溶液の濃度を中和滴定で求められることに気付く。(c)
	第2編 第3章	<ul style="list-style-type: none"> 電子の授受に注目して酸化還元反応を説明できることを理解している。(a) 酸化数を求めることによって酸化還元を判断できる。(b) 酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤や還元剤のはたらきを示す反応式を組み合わせで作ることができる。(b) 金属の反応性の違いがイオン化傾向により説明できることを知る。(a) 電池の原理を理解している。(a) 電池の基本的な仕組みを、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。(b) 身近で利用されている酸化還元反応に興味を持つ。(c)
(3学期より週4単位で化学もしくは情報化学を実施)		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎	1年	2	改訂版 高等学校 生物基礎 (数研出版)	リードLightノート生物基礎 (数研出版)
科目の概要と目標	生物学のミクロレベルからマクロレベルまでの基本的な概念や原理・法則を理解し、日常生活の中にある生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
主な評価方法	定期考査 実験レポート	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題 実験レポート

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> ・現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することがわかる。(a) ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。(a) ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。(b) ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか説明できる。(b)
	第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっており、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解している。(a) ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。(b) ・分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。(a)
2	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。(a) ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。(c) ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。(a)
3	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。(a) ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。(b) ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。(a) ・生態系のバランスと生物多様性を保全することの重要性がわかる。(a) ・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。(b) ・生態系のバランスや生態系を保全することが重要であることを理解しようとし、認識している。(c) ・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・体育	1年	3	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ 2026 現代高等保健体育ノート 改訂版
科目の概要と目標	各種の運動の合理的・計画的な実践を通して運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体調を整え体力の向上を図り、公正・協力・責任・参画などの態度を育て、生涯を通じて豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、自己の責任を果たすなどの態度を身に付けている。
主な評価方法	レポート 実技テスト	活動シート 映像による動作分析 実技テスト	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	体づくり運動 陸上競技 I ダンス：おわら「各種ダンス」 球技 I A 男子：バレーボール 女子：ソフトボール 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育施設の使い方や1年次の授業の内容・進め方を知る。(a) ・ 集団の中で規律ある行動をとる態度を養う。(c) ・ 体育大会に備え、ラジオ体操や行進練習を通して、集団で協力しながら自己の役割を考えて参加する意識を高める。(b) ・ 体づくり運動は、年間を通し適切な時期に、時数として10時間を確保し実施する。(a) ・ ランニングや体ほぐし・体づくり運動を中心に体力の向上を図り、運動やスポーツの必要性を理解する。(a) ・ 学校周辺のランニングコースを走り、自分に妥協しない強い精神力を養う。(c) ・ 走運動を通して瞬発力や持久力を養い、記録の向上に努める。(a) ・ 「おわら」を通じて豊かな表現力を身につける。(a) ・ 基本的なパスの技術を身に付け、相手コートに正確に入れられるようにする。(a) ・ グローブ、ボール、バット等の用具の扱いに慣れボールが打てるようになる。(a) ・ スポーツの文化的 content とオリンピックを理解する。(a)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長距離走及び体ほぐしや体づくりを中心に、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) ・ ドリブルやパスなどの基本的なボール操作を身につけ、タイミング良くシュートを打つ。(a) ・ 基本的なパスの技術を身に付け、相手コートに正確に入れられるようにする。(a) ・ 球技では、ルールと審判法を理解してゲームを楽しむ。(a)(c) ・ 器械運動では、マット運動を取り扱い、基本的な技を習得する。(a) ・ 選択種目のルールを理解するとともに、基礎となる技能、技術や基本動作を習得する。(a) ・ 武道では、相手を尊重し礼儀を重んじる姿勢を身につける。(c) ・ ダンスでは、創作ダンスを取り扱い、作品を表現して発表する。グループごとに表現したいテーマを考えイメージにあった動きの探求をする。(b) ・ スポーツが経済に及ぼす影響を理解する。(a)
3	体づくり運動 球技 I C ・ バスケットボール (バドミントンと卓球は経験種目として実施) 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体ほぐしや体づくりを中心に行い、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) ・ 基礎、基本の技術を習得し、連携プレイでゲームが進められるようにする。(a) ・ 役割に応じたシャトルの操作や安定したラケットの操作を習得する。(b) ・ ルールと審判法を理解してゲームを楽しむ。(c) ・ ドーピングとスポーツ倫理について学ぶ。(a)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・体育	2年	2	現代高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ 2025 現代高等保健体育ノート
科目の概要と目標	各種の運動の合理的・計画的な実践を通して運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体調を整え体力の向上を図り、公正・協力・責任・参画などの態度を育て、生涯を通じて豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、自己の責任を果たすなどの態度を身に付けている。
主な評価方法	レポート 実技テスト	活動シート 映像による動作分析 実技テスト	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の授業の内容・進め方を知る。(a) ・集団の中で規律ある行動をとる態度を養う。(c) ・体育大会に備え、ラジオ体操や行進練習を通して、集団で協力しながら自己の役割を考え行動する意識を高める。(b) ・体づくり運動は、年間を通し適切な時期に、時数として10時間を確保し実施する。(a) ・ランニングや体ほぐし・体づくり運動を中心に体力の向上を図り、運動やスポーツの必要性を理解する。(a) ・学校周辺のランニングコースを走り、自分に妥協しない強い精神力を養う。(c) ・走運動を通して瞬発力や持久力を養い、記録の向上に努める。(a) ・哀切感に満ちた旋律に合わせて表現する(a) ・球技における基本的な技術を身につけ、攻撃と守備のフォーメーションを理解する。(a)
	陸上競技Ⅱ ダンス：おわら「各種ダンス」 球技ⅡA 男子：サッカー 女子：バレーボール 体育理論	
2	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしや体づくりを中心に、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) ・状況に応じたボール操作と連携した動きによる攻防を展開することができるようになる。(b) ・器械運動Ⅱではマット運動を取り扱い、いくつかの技を組み合わせ滑らかに行うことができる。(a) ・選択種目におけるルールと審判法を理解し、試合運営を含めてゲームを楽しむ。(b)(c) ・武道では、多様な動きに応じた基本動作から得意技を用いて相手の構えを崩し仕掛けたり応じたりするなどの攻防を展開する。(b) ・ダンスにおいては、ダンスを創作する過程で個や群を利用し、作品を創り表現して発表する。(b) ・スポーツの技術と体力の関係について学ぶ。(a) ・目的に応じたトレーニング方法を学ぶ。(a) ・技能と体力の関係について理解する。(a) ・目的に応じた様々なトレーニングの方法を理解する。(a)
	球技ⅡA 選択Ⅱ 男子：器械運動 または武道 女子：ダンス 「各種ダンス」 体育理論	
3	体づくり運動 球技ⅡB： バスケットボール 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし、体づくりを中心に行い、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) ・ルールと審判法を理解してゲームを楽しむ。(a)(c) ・基本となるハンドリング動作から状況に応じたボール操作と連携した動きによる攻防を展開することができるようになる。(b) ・スポーツや運動を安全に行うことができる環境について理解する。(a)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・体育	3年	2	現代高等保健体育 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ 2024 現代高等保健体育ノート
科目の概要と目標	各種の運動の合理的・計画的な実践を通して運動の技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体調を整え体力の向上を図り、公正・協力・責任・参画などの態度を育て、生涯を通じて豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。	運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、自己の責任を果たすなどの態度を身に付ける。
主な評価方法	レポート 実技テスト	活動シート 映像による動作分析 実技テスト	提出課題 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	体づくり運動 陸上競技Ⅲ ダンス：「おわら」 選択ⅢA 男女共修 ・バレーボール ・サッカー ・テニス ・ソフトボール 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の授業の内容・進め方を知る。(a) 集団の中で規律ある行動をとる態度を養う。(c) 体育大会に備え、ラジオ体操や行進練習を通して、集団で協力しながら自己の役割を考え行動する意識を高める。(b) 体づくり運動は、年間を通し適切な時期に、時数として10時間を確保し実施する。(a) ランニングや体ほぐし・体づくり運動を中心に体力の向上を図り、運動やスポーツの必要性を理解する。(a) 学校周辺のランニングコースを走り、自分に妥協しない強い精神力を養う。(c) 走運動を通して瞬発力や持久力を養い、記録の向上に努める。(a) 哀切感に満ちた旋律に合わせて表現する。(a) (選択種目別に、生徒が主体的となって学習計画を立て実行する) <ul style="list-style-type: none"> 選択種目の特性や練習の仕方を学ぶ。(a) 選択種目の個人技能や集団技能を高める効果的な練習方法を探し、提案する。(b) 選択種目におけるルールと審判法を理解し、試合運営を含めてゲームを楽しむ。(b)(c) チーム内の班員とスムーズに練習ができるよう互いに協力する。また、どうすればチーム力が向上するか考えて行動する。(c) 生涯スポーツの見方・考え方について学ぶ。(a) ライフスポーツに応じたスポーツについて学ぶ。(a)
2・3	体づくり運動 選択ⅢA 選択ⅢB 男女共修 ・バスケットボール ・サッカー ・卓球 ・バドミントン 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしや体づくりを中心に、休暇中に低下した体力の早期回復を図る。(a) 選択種目の連携プレーや戦略について学ぶ。(a) 選択種目の個人やチームに必要な技能を高めるための練習方法を模索し実践してみる。(b) 選択種目で勝てるチームにするために、自己が果たす役割を考えて行動する。(c) ※選択ⅢAに準ずる <ul style="list-style-type: none"> スポーツを推進する取り組みについて学ぶ。(a) 豊かなスポーツライフの創造について学ぶ。(a)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育・保健	1年	1	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	現代高等保健体育ノート 改訂版 (大修館書店)
科目の概要と目標	時代の流れの中で、健康自体のとらえ方や健康のために人や社会に望まれることも変化してきている。そのことをとらえ、現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて学習する。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	生涯を通して自身の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。
主な評価方法	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 授業ノート 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	現代社会と健康	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について理解する。(a) がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解する。(a) 喫煙、飲酒、薬物乱用が人体や周囲の人々へ与える影響について理解し、喫煙、飲酒、薬物乱用の対策について個人と社会に分けて例をあげて説明する。(b)
2	現代社会と健康	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて理解する。また、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて理解する。(a) 感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて理解する。また、感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともにそれらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解する。(a) 健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて理解する。(b)(c)
3	安全な社会生活	<ul style="list-style-type: none"> 事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて理解する。(a) 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり傷病者の苦痛を緩和したりすることについて理解する。(a) 自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人ひとりが適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であることを理解する。また、日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用が必要であること、及び方法や手順について理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。(b)(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・音楽Ⅰ	1年 (選択)	2	高校生の音楽1	高校生のための 音楽研究ノート
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性などについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
主な評価方法	筆記試験 ワークシート	実技試験 演奏 授業中の行動観察	自己評価と相対評価 ノート 授業中の行動観察

学期	題材	学習内容及び評価基準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な音楽 「校歌」 「翼をください」 「故郷」 「ひまわりの約束」 ・器楽アンサンブル キーボードアンサンブル 「威風堂々」 ・楽典 「音名」「音程」 「反復記号」 「調号と臨時記号」 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表す。(a) ・音色、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持つ。(b) ・身近な音楽に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(c) ・曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能を身につけ、器楽で表す。(a) ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・楽器の奏法を身につけることや楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。(c) ・音楽の特徴と文化的背景を理解し、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わう。(c) ・音名、音程に関する基礎的な知識・法則を理解する。(a) ・音名、音程や各種記号を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。(c)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の歌、日本の歌 「Caro mio ben」(伊) 「Heidenröslein」(独) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表す。(a)

	<p>「A Whole New World」 (英) 「この道」</p> <p>・ ボディ・パーカッション (創作) 「クラッピング・カルテット 第1番」</p> <p>・ 器 楽 (創作) ギター 「Scarborough Fair」 「Country Roads」 「Greensleeves」 トーンチャイム</p> <p>・ 楽 典 「音階」 「調号と調性」 「音符と休符」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音色、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持つ。(b) ・ 歌詞の内容を理解し、曲にあった発声、フレーズを意識した表現の工夫をすることに興味関心をもち、音楽活動を主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(c) <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。また、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身につけ、創作する。 <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・ ボディパーカッションで音色を工夫したり、構成を工夫したりしながら、表現したいイメージをもって作曲・演奏することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表す。(a) ・ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身につけ、創作する。(a) ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・ 楽器の音色や奏法に関心をもち、音楽活動を主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・ 音階、音価に関する基礎的な知識・法則を理解する。(a) ・ 音階や音価を学習することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。(c)
3	<p>・ 日本の伝統芸能 「篠笛」</p> <p>・ 楽 典 「和音」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造、文化的・歴史的背景との関わりについて理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表す。(a) ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。(b) ・ 篠笛の音色や奏法の特徴、様々な日本の伝統芸能に興味関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組む。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・ 和音に関する基礎的な知識・法則を理解する。(a) ・ 和音を学習することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体・協働的に学習活動に取り組む。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・美術 I	1年 (選択)	2	新・高校生の美術 I (日文)	
科目の概要と目標	美術の学習を通して、感性や表現する力を高めるとともに、美術を愛好する心情を養う。			

	知識・技能 (a)	思考・判断・表現 (b)	主体的に学習に取り組む態度 (c)
評価の観点	学習を通して造形的な見方ができる。 色彩構成の考え方を深めることができる。	発想や構想を働かせ表現活動を行うことができる。	美術を愛好する心情や豊かな感性を育み、学習に主体的に取り組めるように工夫する。
主な評価方法	作品制作 色彩の構成	作品制作 発想力	レポート

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	絵画 「油彩による静物画」	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆で画面構成して正しく構図を決めることができる。(a) モチーフの配置を工夫しながら、空間と奥行きを感じさせる構図を考えることができる。(a)(b) 油絵の具の基本的な使い方を理解し対象の材質感を表現することができる。(a)(b) 油絵の混色、重色の効果を考えながら計画的に制作を進めることができる。(b) 他の生徒の作品を鑑賞し、作者の心情、考えを読みとることができる。(c)
2	絵画 「油絵による自由表現」	<ul style="list-style-type: none"> 対象や表現の構成を工夫しながら、自分の表現方法を空間と奥行きを画面に表現して構想することができる。(a)(b) 油絵の具の基本的な使い方を理解し材質感を表現することができる。(a)(c) 油絵の混色、重色の効果を考えながら計画的に制作を進めることができる。(b)(c) 主題の表現にふさわしい用具や表現方法を見つけ出し工夫することができる。(b) 意図や条件に応じた自由な発想を主体的に行い、独自の表現ができる。(b)
3	デザイン 「椅子のデザイン」	<ul style="list-style-type: none"> 美しいものにはある一定の美的秩序があることに気づくことができる。(a) デザインの法則(バランス・ハーモニー・シンメトリーなど)を理解して、オリジナルの形や椅子のデザインをすることができる。(b) 形、作り、柔らかさを工夫して自分のイメージする椅子を制作することができる。(b) 他の生徒の作品を鑑賞し、どのようなデザインが美的秩序により構成されているか発見・理解することができる。(b)(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・書道 I	1年 (選択)	2	書道 I (東京図書)	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 書道の幅広い活動を通して、書写能力を基盤とし、さらに芸術としての多様な書の美しさを鑑賞によって理解する。 その美しさを表現するための基礎的な力を身につける。 			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
主な評価方法	提出作品 ワークシート 確認プリント	提出作品 ワークシート 確認プリント	提出作品 ワークシート 確認プリント 授業中の行動観察

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	書の美を求めて 楷書の学習 篆刻の学習	<ul style="list-style-type: none"> 書の分野や用具・用材について理解し、表現のための学習方法を把握する。(a) 毛筆の基本的な用筆法を学ぶ。(a)(b) 古くから名筆とされてきた作品を鑑賞し、表現の多様性を理解し、それぞれの特徴をとらえて書くことができる。(a)(b)(c) 篆刻が芸術作品として鑑賞の対象となる書の表現のひとつであることを理解する。(a) 姓名印の制作を通して篆刻の手順と技法を理解する。(a) 篆刻の刻法を学ぶ。(a) 篆刻における押印法を身に付け、落款法を知る。(a)(b) 書の表現方法の一つとして創作し、立体性を学ぶ。(b)(c)
2	行書の学習 隷書の学習 仮名の書の学習	<ul style="list-style-type: none"> 行書の特徴を知り、行書が芸術の書、実用の書の両方で広く用いられていることを理解する。(a) 行書の用筆法に慣れ、変化と調和のバランスを学ぶ。(a) 隷書の特徴を理解し、技法を学ぶ。装飾性のある隷書が日常において目に触れる機会があることを知る。(a)(b) 仮名の歴史、小筆の扱い方、用筆法などを理解する。(a) 平仮名、変体仮名に関心を持ち、連綿による流動美を理解する。(a)(b) 散らし書きなどの仮名独自の表現を知ることによって日本の伝統的な書的美を感じることができる。(b)(c)
3	漢字仮名交じりの書の学習	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感性で受け止めた詩文などを題材に楽しく表現することができる。(b)(c) 漢字と仮名の調和の重要性を確認し、そのための工夫について考えることができる。(a)(b)(c) 明確な制作意図を持って、主体的・意欲的に創作活動を行う。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
外国語・英語コミュニケーション I	1年	3	Heartening English Communication I New Edition	Heartening English Communication I New Edition 学習ノート
科目の概要と目標	「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、日常的・社会的な話題について、必要な情報や話し手の意図を把握し、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができる能力を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。 自分の考えや気持ちを伝える技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や自分の考えなどをわかりやすく伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報や自分の考えなどをわかりやすく伝えようとしている。
主な評価方法	定期考査 小テスト（単語テスト） Activity原稿内容評価（表現・文法）	定期考査 提出課題 Activity原稿内容評価	提出課題 Activity発表（スピーチ）評価

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	Lesson1	<ul style="list-style-type: none"> 小田選手についての記事（物語文）を読んで、概要を理解する。現在形／過去形／進行形 未来表現 小田選手についての会話を聞いて、話し手の意図や概要を理解する。(a) 小田選手の記事の内容や感想を伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
	Lesson2	<ul style="list-style-type: none"> アンズについてのニュース（物語文）と視聴者のコメントを読んで、概要を理解する。 現在完了形／現在完了進行形、過去完了形／過去完了進行形 アンズについての会話を聞いて、話し手の意図や概要を理解する。(a) アンズのニュースを、テレビの視聴者にわかりやすく伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
	Lesson3	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題についての説明文・意見文を読んで、概要を理解する。 助動詞 助動詞の過去形 環境問題への取り組みについての会話を聞いて、概要を理解する。(a) 環境問題への4名の取り組みを、整理して伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
	Lesson4	<ul style="list-style-type: none"> ポイ捨てを減らす方法についての論証文を読んで、概要を理解し、関連した情報を探す。 さまざまな受動態 前置詞 ポイ捨てを減らす方法についての会話を聞いて、話し手の意見を理解する。(a) ポイ捨てを減らす3つの効果的な方法を、整理して伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
2	Lesson5	<ul style="list-style-type: none"> パンの缶詰についての記事（物語文）を読んで、概要やメッセージを理解する。 不定詞 SV（知覚動詞・使役動詞）+0+動詞の原形 パンの缶詰についての会話を聞いて、話し手の意見や意図を理解する。(a) パンの缶詰についてのエピソードを、わかりやすく伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)

2	Lesson6	<ul style="list-style-type: none"> 恐竜再生についての講義（説明文）を読んで、概要を理解し、関連した情報を探す。 動名詞 SVC（分詞） 恐竜再生についての会話を聞いて、話し手の意見を理解する。(a) 恐竜再生の可能性について、要点や根拠を整理して伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
	Lesson7	<ul style="list-style-type: none"> ファッション業界についての講演（説明文）と、問題に対して対立する二者の意見を読んで、概要を理解する。 SVOC（分詞）分詞構文 ファッション業界の問題点についての会話を聞いて、話し手の意図や概要を理解する。(a) ファッション業界についての講演内容と二者の意見を、整理して伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
	Lesson8	<ul style="list-style-type: none"> 世界の冬の祭りの共通性について論じた説明文を読んで、概要を理解し、関連した情報を探す。 比較に関する表現 従属接続詞 存続が難しい祭りについての会話を聞いて、話し手の意見を理解する。(a) 世界の冬の祭りの特徴と共通点を、整理して伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
3	Lesson9	<ul style="list-style-type: none"> 働かないアリについての科学的事実を述べた説明文を読んで、概要を理解し、関連した情報を探す。 関係代名詞 関係副詞／関係代名詞の非制限用法 働かないアリについての会話を聞いて、概要を理解する。(a) アリのコロニーの研究について、要点を整理して伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)
	Lesson10	<ul style="list-style-type: none"> 安田さんについての物語文を読んで、概要やメッセージを理解する。 仮定法過去／仮定法過去完了 仮定法を使った表現 安田さんについての会話を聞いて、話し手の意見や意図を理解する。(a) 安田さんの記事の内容を、わかりやすく伝える。(b) 上記のように伝えようとしている。(c)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
家庭・家庭基礎	2年	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	最新生活ハンドブック (第一学習社)
科目の概要と目標	自立した生活者として必要な基礎的知識と技能を身につけ、生涯を見通して家庭や地域及び社会における課題の解決を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	家族・家庭や福祉、衣食住、消費生活・環境などに関する基礎的な知識と技能を身につけている。	生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、解決に向けて実践、考察し、論理的に表現する力を身につけている。	生活に関心を持ち、家族や地域・社会との共生を目指して、生活の充実向上を図るために実践している。
主な評価方法	定期考査 実習 作品製作	定期考査 ワークシート レポート課題 発表	ワークシート レポート課題

学期	単元	学習内容及び評価基準
1	生涯を見通す	生涯発達の視点から今の自分を客観的に見つめ青年期の自立について考えることができる。(b)
	人生をつくる	多様な生き方や働き方について理解している。(a) 家族・家庭に関する法律を理解している。(a)
	子どもと共に育つ (名札製作) (保育園実習)	子どもの心身の発達や生活について関心を持ち、親や保育者の役割を理解している。(a) 現代の子育て環境の課題と、子育て支援の必要性について考えることができる。(b) 子どもの発達段階を考え、保育園訪問の名札をデザインし製作することができる。(b) 保育園訪問に目的意識を持って参加し、子ども達と触れ合うことができる。(b)
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(夏休み課題)自分の生活の中から課題を見つけ、解決方法を考え計画を立てて実践し、まとめることができる。(b)(c)
2	食生活をつくる	ホームプロジェクトをわかりやすく発表することができる。(b) 食習慣と健康の関わりや食の安全について理解し、食生活の問題点について考えることができる。(b) 栄養素の働きや食品の栄養的特質を理解し、バランスのよい食事計画ができる。(a) 調理法の要点と基本的な調理技術を身につけている。(a)
	衣生活をつくる	被服の多様な機能と役割を理解している。(a) 被服表示を参考に被服材料の性能や加工、被服管理について科学的に理解している。(a)
	住生活をつくる	住空間の計画や健康的で安全な住環境について理解している。(a)
3	経済活動を営む	経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解している。(a) 契約や消費者問題について理解し、責任ある消費行動について考えることができる。(b) 環境負荷の少ない生活について考えることができる。(b)
	超高齢社会を生きる 共に生き、共に支える これからの生活を創造する	高齢者の心身の変化や高齢期を支える社会のしくみと課題について理解している。(a) 生活を支える福祉について理解し、社会の一員としての関わり方を考えることができる。(b) これまでの学習を活かし生活設計を立てることができる。(b)

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
情報・情報 I	1年	2	情報I Step Forward! (東京書籍)	タブレット端末
科目の概要と目標	これからの情報社会を生きるために必要な情報活用能力の育成を目指す。情報の科学的な理解に基づき、コンピュータや情報通信ネットワークを適切に活用する技術を習得するとともに、情報技術の進歩が社会に与える影響を理解し、主体的に参画する態度を養う。			

	知識・技能(a)	思考・判断・表現(b)	主体的に学習に取り組む態度(c)
評価の観点	情報の特性、情報デザインの基礎、コンピュータの仕組み、プログラミング、ネットワーク、データ活用の基本概念を理解し、情報機器やソフトウェアを適切に操作する技能を身に付けている。	目的や状況に応じて適切なメディアや情報デザインを選択し、アルゴリズムの考案やシミュレーション結果の評価、データの分析を通じて、科学的な根拠に基づいて判断・表現できている。	情報技術の進歩に関心を持ち、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組もうとしている。また、情報モラルを守り、社会の発展に寄与しようとする態度が見られる。
主な評価方法	定期考査 実習レポート 小テスト	定期考査 実験レポート 提出課題	提出課題 グループワーク

学期	単 元	学 習 内 容 及 び 評 価 基 準
1	第1章 情報社会の進展 第2章 情報デザイン	<p>【学習内容】 情報の本質的な特性とメディアの役割を理解し、PDCAサイクルなどの問題解決の手法を習得する。知的財産権、個人情報の保護、情報セキュリティの確保など、情報社会を生きる上で必須となる倫理観と法規（著作権法、不正アクセス禁止法等）を学び、具体的な事例（ソーシャルエンジニアリング等）を通してリスク管理能力を養う。さらに、数値（n進法変換）、文字、音、画像のデジタル化の仕組みを深く学び、データ量の計算方法を習得する。</p> <p>【評価基準】 ・状況に応じて情報の信憑性を科学的に評価し、最適なメディアを選択して表現できる。(b) ・知的財産や個人情報保護の重要性を理解し、適切な引用や情報の扱いを実践しようとしている。(c) ・デジタルデータの特性を理解し、2進法・10進法の相互変換や、サンプリング周波数に基づいたデータ量の見積もりを正確に行える。(a)</p>
2	第2章 情報デザイン 第3章 コンピュータとプログラミング	<p>【学習内容】 情報デザインにおける抽象化・構造化・可視化の技法を学び、ピクトグラムや図解を用いた効果的な伝達方法を実践する。UIとUXの違い、ユニバーサルデザインやカラーバリアフリーの重要性を理解し、コンテンツ設計に応用する。コンピュータの内部構成（CPU、メモリ、センサ等）やソフトウェアの役割、論理回路を学ぶ。</p> <p>【評価基準】 ・受け手を意識し、情報を整理・構造化して、目的に沿った分かりやすいデザインで表現できる。(b) ・コンピュータの処理手順を理解し、効率的なアルゴリズムを考案してフローチャート等で的確に示せる。(a) ・プログラミングの基本概念を習得し、目的に応じた正確かつ効率的なコードを記述し、不具合を修正しようとしている。(c)</p>
3	第3章 コンピュータとプログラミング 第4章 情報通信ネットワークとデータの活用	<p>【学習内容】 プログラミングの応用として関数やWebAPIの活用を学び、外部データと連携したシステム制作に挑戦する。現象を数理モデル化し、シミュレーション（交通渋滞、災害時帰宅等）する。</p> <p>【評価基準】 ・事象を適切にモデル化し、シミュレーション結果に基づいて、科学的な根拠を持って解決策を提案できる。(c) ・ネットワークの構成やプロトコルの役割を理解し、情報システムの安全性を高めるためのセキュリティ対策（暗号化、ファイアウォールなど）を判断できる。(a) ・蓄積された膨大なデータを適切に処理・分析し、統計的な優位性や相関関係に基づいた客観的な結論を導き出し、発表できる。(b)</p>